

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念をもとに事業所の目標や個人目標を立てて取り組み、カンファレンスなどで話し合いを重ねることで実践に繋げている | 朝の朝礼や毎月の会議で、その人にあった介護が出来るように入居者目線での話し合いをし、常に「入居者、家族、地域と共に歩む」という理念のふりかえりをしている。理念にそぐわない言動があった場合には管理者が個別に面談をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や買い物の際に日常的に挨拶を交わしたり、地区のお祭りなどにも参加することで積極的に交流を持っている | 地元の方がホームの敬老会などに大正琴の演奏ボランティアとして参加している。子供神輿や小学校のボランティア委員の訪問もある。散歩途中に近隣の農家や住民からぶどう、花などを頂くこともある。ホームではもっと地域のお年寄りに関わりたいと考えているが、個人情報の収集については厳しく、お年寄りの実態把握が困難な状況である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通じた地域への情報提供を意識するとともに、地区の認知症講習会などで講演するなどしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行事などの活動報告、利用者の状態、認知症への理解などについて話し合い意見をいただいている。また緊急時の応援体制について意見交換している | 2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所の活動報告や入居者の様子が写真などで紹介され、参加メンバーとの活発な意見交換が行われている。町会の方に議事録をまとめていただいたり、時にはホームでの催し物のご案内をしていただくなど町会の中での協力者が増え、事業所への理解が広がっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 派遣相談員の訪問時や運営推進会議の機会に利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている | 市の窓口には入居された方の介護保険などのことで個別に相談をかけている。管理者は「現場からのかかわりについて」他、市内各地区に講師で出向いている。介護相談員が月に1度来訪し、直接の話し合いをしたり市からの報告も受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内研修により知識や理解を深めるとともに、カンファレンスなどで利用者一人ひとりの状態について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員が講師となる施設内研修で学習し、主旨や弊害について十分に理解している。ホームの裏側が急傾斜地のため外出傾向の入居者の様子によっては玄関に施錠することがあり、家族からも了承を得ている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内研修により知識や理解を深めることで職員全員で防止に努めている | | |

グループホームなごみ・東雲棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 運営推進会議などを通じ情報を収集し活用できるようにしている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入退所時には十分に時間をかけ丁寧な説明を行っている。特に看取りや医療連携体制については詳しく説明し同意を得るようにしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置するなどし意見や要望を伝え易い環境作りに努めている。また何でも言ってもらえるような関係作りに留意している | 遠方の家族が多いので、家族には毎月一人ひとりの生活の様子を写真で知らせ、併せて身体状況や連絡事項、現金残高などを書面で報告し、入居者と家族とが身近に感じられるように心がけている。家族会が年2回食事会も兼ねて開催されており楽しい一時となっている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングやカンファレンスを通じ意見交換を行い改善に反映させている | 月1回の定例会では気軽に意見を出し合い、課題について検討している。職員は自分の業務の年間目標を立て入居者との係わりの中で実践している。年2回管理者とその目標について話し合う機会をもち、ふりかえり後、次のステップに向けて新たな目標を設定し取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員からの提案を積極的に取り入れなど、職員自身が自発的に取り組む姿勢を大切にしている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月1回施設内研修を実施し職員全員が参加できるようにするとともに、法人内外の研修にも積極的に参加できるよう取り組んでいる | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会や講習会に参加している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 時間をかけて本人の訴えを聞きながら、不安や希望などを把握するよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 十分に時間をかけ家族の気持ちを聞きながら、信頼関係を築いていくよう努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の状況を確認しながら、必要な支援が行えるよう努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 会話の機会を多く持ち、出来ることを一緒に行ったり依頼したりしながら、法人の理念である「共に歩む」という姿勢を大切に、関係構築に努めている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的に日々の様子を報告し情報を共有することで共に支える関係作りに努めている。また家族の来訪時には共により時間を過ごしていただけるよう配慮している | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人や家族と話し合った上で、外出や知人の来訪などを通じ、馴染みの場所などとの関係が途切れないよう努めている | お盆や彼岸に帰省し家族とお墓参りをする機会を設けたり、年末には年賀状を書かれる方の支援もしている。手厚い介護を受け、入居者の在籍期間も長くなる傾向にあるのでホームが心身共に「馴染みの場所」となるようにきめ細かなサービスの提供を心がけている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係把握に努め、人間関係がスムーズにいくよう配慮している。また利用者同士が話をしたり居室を歩き来しているときは、その時間を大切にしよう見守りを行っている | | |

グループホームなごみ・東雲棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も関わりを大切にし、随時相談を受け付けている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人との会話を通じて聞き出すことを心掛けるとともに、家族にも協力いただきながら、カンファレンスなどで情報を共有し検討を行っている、 | 自分の思いを言葉で表すことが出来る入居者もいるが、表情やしぐさからも思いを受け止めている。遠慮がちな入居者には、食事時や居室などで常に話をし、職員との関係が深まるように心がけている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族との会話や記録から把握するよう努めるとともに、収集した情報は職員間で共有するようにしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケース記録などを活用し一人ひとりの生活のリズムを把握するよう努め、職員間で情報を共有している | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の想いや希望を尊重し、一人ひとりに合った介護計画を作成するよう心掛けている | 本人や家族、担当の職員などの意見を聞きながら計画作成担当者によって介護計画が作成されている。毎月の会議で話し合いが行われ、見直しは3ヶ月に1度、状況が変わった場合には現状に即して変更している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人ひとりの様子がわかるようケース記録に記入し、勤務前には記録を確認している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況に応じて外出や外泊、移送のサービスを通じ、柔軟に対応するよう努めている | | |

グループホームなごみ・東雲棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 月1回のは派遣相談員や傾聴ボランティアの訪問を通じ情報交換や協力を行っている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前に協力医療機関がかかりつけ医になることを説明し同意を得ているが、希望があればそれまでの医療機関を受診できるよう支援している | 入居時の話し合いにより家族等の了承を得て協力医に変更する場合がある。協力医による週1回の往診や訪問看護師の週3回の来訪がありきめ細かな健康チェックがされている。専門医の受診に付き添った場合には電話で家族に報告している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師に気づいた点を相談しながら、適切な医療を受けられるよう支援している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には医療機関と情報交換を行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居前に施設の重度化した場合の指針を説明している。終末期を迎えた場合、本人や家族の希望を尊重し、職員や医療関係者などと相談を重ねた上で支援を行っている | 入居時に重度化や終末期のあり方を家族に説明し同意を頂いている。今年も看取りが行われた。最初不安であった職員も、家族、医師、看護師と心をつにし、勉強会等も経て、温かな気持ちで送ることができた。家族も感謝し、他の入居者も自然に受け止め、全員でお見送りをした。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署などが実施する救命講習を受講している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回同一敷地内のケアハウスと合同で防災訓練を行い、避難誘導や消火器の使用方法などの訓練を実施している。また運営推進会議を通じ地域への協力をお願いしている | 年2回消防署の指導で昼夜を想定した避難訓練が隣接施設と一緒にこなわれている。法人の防災管理担当者から指導を受け、随時、非常災害訓練も行われている。入居者には氏名や歩行状態などが書かれたネームプレートと真っ赤なタオルが用意されており、非常時に駆けつけた住民に一目で入居者とわかるような工夫がされている。 | |

グループホームなごみ・東雲棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の状況や精神状態を考慮し一人ひとりに適した声掛けや対応を行っている。また施設内研修を通じ知識と理解を深め、日々のケアにおける声掛けや対応について向上に努めている | 呼びかけは、苗字に様をつけて呼んでいる。施設内研修で「プライバシー保護について」職員間で話し合い、サービス提供時にも人生の先輩として敬意を払い対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員側で決めたことを押し付けるのではなく、自由に意思や気持ちが表現できる雰囲気作りを努めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ある程度の日課はあるがそれにとらわれることなく、本人のペースや希望に沿った生活ができるよう心掛けている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日々の服装などを自分で選んでいただいたり、これまでのスタイルができるよう本人の意思を大切にしている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や盛り付けなどはできるだけ利用者で行っている。また季節が感じられる献立を意識し、職員も一緒に食事を取ること、好みや好きな食べ物の話をしながら楽しい時間になるよう心掛けている | 普段の献立は入居者の希望や冷蔵庫の中身などで決まる。誕生日には本人の好きなメニューが提供されている。一部は検食として保管される。入居者も盛り付けの手伝いなどをし、眼前に松本平が広がる展望台のような居間兼食堂で秋の花や紅葉で飾られた見た目も美味しそうな器で昼食を楽しんでいた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ある程度の日課はあるがそれにとらわれることなく、本人のペースや希望に沿った生活ができるよう心掛けている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの重要性を理解し毎食後一人ひとりに合った口腔ケアを行っている | | |

グループホームなごみ・東雲棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表を活用し排泄のパターンを把握し適切なトイレ誘導ができるようようカンファレンスなどで話し合っている。本人の意思を尊重した支援が出来るよう心掛けている | 排泄表から一人ひとりの様子を読み取り、時間を決めて誘導するなど自立支援に努めている。夜間帯はオムツやリハビリ、ポータブルを使用するなど個々の入居者に合わせたケアを行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事に乳製品や繊維質の多い食材を取り入れたり、散歩などを積極的に促すことで予防に取り組んでいる | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 希望やタイミングに合わせた声掛けをし、一人ひとりに合った入浴を行っている。入浴を楽しめるよう話しかけたりし、リラックスできる時間になるよう心掛けている | 少なくとも週2回入浴している。二つのユニットの時間帯が午前、午後に分かれているので何時でも入浴できる。嫌がる入居者には言葉掛けを工夫し、本人の様子を見ながら声をかけている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの状況や体調に合わせて休息を促している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的、副作用、用法、用量については常に確認し理解している。薬が変更されたり状態が変化した場合には詳細な記録をとるようにし、医療機関と連携を図るよう心掛けている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の今までの生活習慣などを検討しながら、一人ひとりに合った役割を持っていただき力を発揮できるよう心掛けている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望や状態に応じて可能な限り外出の機会を作っている。車イスなども活用し多くの方が戸外で気持ち良く過ごせるよう配慮している。また家族と協力しながら一時帰宅や墓参などが行えるよう支援している | 天気が良い日には車椅子の方も自立歩行の方も思い思いのペースで散歩している。買い物も個別に支援し同行している。松本城の見学や花見などにユニットごとで出かけている。訪問時、隣接するケアハウスへコンサート鑑賞に出かける入居者の姿も見られた。 | |

グループホームなごみ・東雲棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望のある利用者には家族と相談の上お金を所持していただいている。買い物などに出掛けた際にはなるべく本人に支払いをしていただいている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に合わせ、家族との関係やプライバシーに配慮しながら、手紙、電話、時候の挨拶などのやり取りを支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間には生け花や観葉植物を置き、廊下や壁には季節を感じられる暖簾などをかけるなどして、落ち着いて過ごせる環境作りを行っている | 広々とした居間は日当たりも良く、ソファで眼下の眺望を眺めたり絵本を読むなど思い思いの過ごし方をしている。壁には行事の写真や秋を感じさせるタペストリー、棚にも秋の花を飾り、季節のめりはりを演出している。入居者は職員と共にこの居間で過ごすことが多い。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルやソファの配置を工夫して、利用者がひとりになったり気の合った利用者同士で過ごせるようにしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談しながら、居室には以前から使用していた家具や調度品を置いたり、写真や花を飾るなどして、居心地よく過ごせるようにしている | 日当たりの良い居室沿いには広いベランダがあり、夏には焼肉大会も行われる。入居者が自分で書いた達筆な書を飾ったり、家族の写真や入居者の顔入りカレンダーをさげるなどそれぞれの個性を感じる居室づくりがされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 「できること」「わかること」「していること」などを見極め、不安や混乱を招かないよう環境に配慮している。自力で自由に安全な生活が行えるよう支援している | | |